

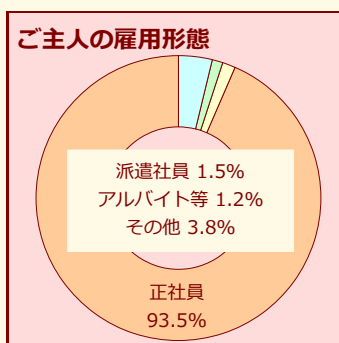
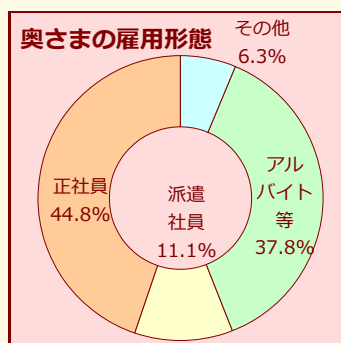
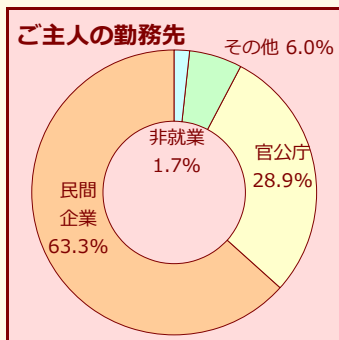
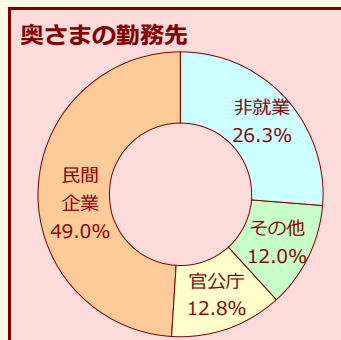
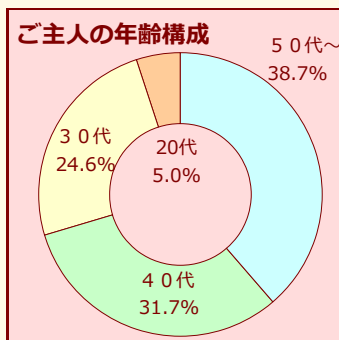
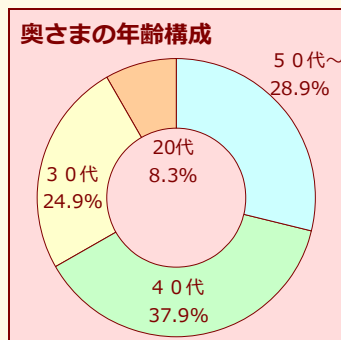
調査レポート

January. 2008
No. 222

主婦の冬季ボーナスに関する 意識調査 - 2007 -

この調査は

青森県内のサラリーマン家庭の主婦を対象として
ボーナス受給額や使いみちなどを尋ね
その意識と実態を把握するために
夏と冬の年2回実施しています



◇調査時期：

平成19年11月下旬～12月中旬

◇調査地：

青森県内10市

◇調査対象者：

一般サラリーマン家庭の主婦

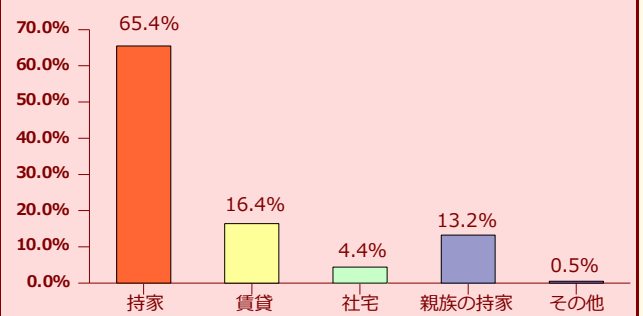
◇調査対象人数：600名

◇調査方法：無記名アンケート方式

◇回答者数：409名（回答率68.2%）

ご回答者プロフィール
～ご年齢・お仕事・お住まい～
(裏面に支給時期を掲載)

お住まいの割合



家庭の銀行



**1. 冬季ボーナスは
毎年支給されていますか？**

⇒全年代で、奥さまは5割前後、
ご主人は9割弱に毎年支給。

…P.1

**2. お互い「ボーナスの支給明細書」を
お見せしますか？
あるいはお互いのボーナス支給額を
ご存知ですか？**

⇒ご主人は「おおよその支給額」を、
奥さまは「詳細」まで把握。

…P.1

**3. 今冬ボーナスは昨年と比べて
増減はありますか？**

⇒「前年比横ばい」傾向は縮小。
全世代において減少傾向？

…P.2

**4. ずばり、ボーナスの予想額or実額は？
希望額はいくらですか？**

⇒前年比ではやや増加だが、
実感に乏しい模様。

…P.2

**5. 「貯蓄」「投資」「ローン返済」
「消費」どう配分しますか？**

⇒「貯蓄」「消費」増加傾向。
「ローン返済」「投資」減少傾向。

…P.3

**6. ボーナスをすぐには使わない場合、
それはどのような目的から？**

⇒「子供の教育資金」「何となく」
「病気・災害対策」が今回も優勢。

…P.4

**7. 「ボーナスで金融商品を」
どの商品を選びますか？**

⇒普通・定期預金が引き続き人気。
そのほかの商品は例年通り。

…P.5

**8. 金融商品をお選びになる際に、
重視するポイントは何ですか？**

⇒『流動性→安定性→収益性』は不変だが
流動性微増・安全性微減。

…P.6

**9. 現在ローンをご利用されていますか？
それはどういうローンですか？**

⇒利用割合はほぼ横ばい。内訳は
住宅・自動車・カードローンが人気。

…P.7

**10. この冬、ボーナスでほしいものは
何ですか？**

⇒今期も衣料品が中心。2位が趣味・自己
啓発関連、3位が薄型テレビ。

…P.8

**11. ご家族のおこづかいは
おいくらですか？**

⇒奥さまは3割強がおこづかいあり。
平均額は4.9万円。
ご主人は5割弱がおこづかいあり。
平均額は5.7万円。
子どもは2割強がおこづかいあり。
平均額は2.1万円。

…P.10

**12. この冬、ご旅行・レジャーなどの
ご予約はいかがですか？
あるいは実際に行かれましたか？**

⇒「予定・実施割合は増加」
「国内旅行・帰省・アウトドアが人気」
「日数は2～4日が中心」
「総費用はやや増加」

…P.10

《スポット調査》

昨年の金融業界トピックス2点！

「個人専門店」「ゆうちょ銀行」

～それぞれの期待度・これからのご希望を
意識調査！～

…P.12

**『冬季ボーナス支給日はいつごろ？』
(全平均)**

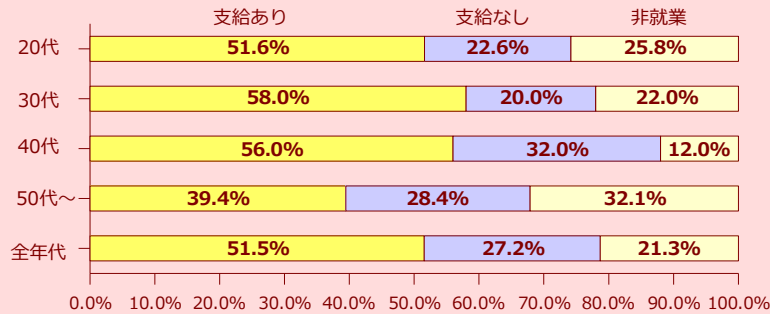
…本誌裏表紙

※「今回調査時初登場の項目における数値」などでは、前年比データ（ポイント）が付記されていないものもあります。

1. 冬季ボーナスは毎年支給されていますか？

⇒全年代で、奥さまは5割前後、ご主人は9割弱に毎年支給。

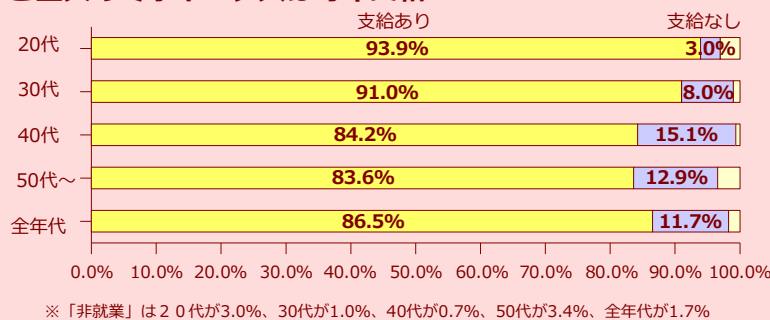
奥さまの冬季ボーナスは毎年支給？



奥さまとご主人の、定期的な冬季ボーナス収入の有無について尋ねたところ、全年代において「ある」という回答は、奥さまについては51.5%、ご主人については86.5%となった。

総じて、奥さまは5割前後、ご主人は9割弱に冬季ボーナスが支給されているようだ。

ご主人の冬季ボーナスは毎年支給？



『主婦の夏季ボーナスに関する意識調査-2007-』でも、全年代において「ある」という回答は、奥さまについては49.4%、ご主人については83.2%であり、ボーナスの支給実績自体は、おおよそ今夏のボーナスとそれほど変わらないようだ。

2. お互い「ボーナス支給明細書」をお見せしますか？

あるいはお互いのボーナス支給額をご存知ですか？

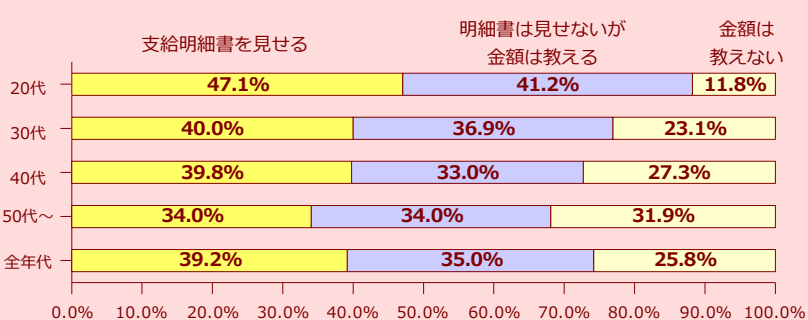
⇒ご主人は「おおよその支給額」を、奥さまは「詳細」まで把握。

お互いに「ボーナス支給明細書」を見せますか？あるいはお互いのボーナス支給額をご存知ですか？と尋ねたところ、全年代において「支給明細書を見せる」と「明細書は見せないが金額は教える」の合計は、奥さまについては74.2%、ご主人については90.6%となった。

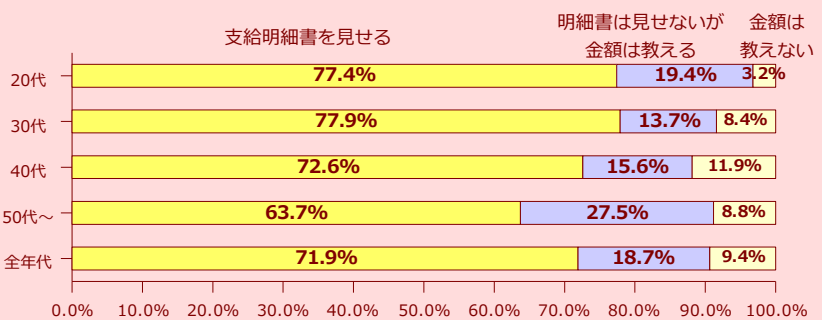
同様の質問についての、今夏ボーナスでの結果をみると、奥さまについては78.8%、ご主人については92.7%であった。

奥さま・ご主人ともに多少「金額は教えない」の割合が増加しているが、大勢としては「奥さまは詳細まで把握」「ご主人はおおよその支給額を把握」という傾向は変わらないようだ。

奥さまはご自身の「ボーナス支給明細書」を、ご主人にお見せしますか？



ご主人は「ボーナス支給明細書」を、奥さまにお見せしますか？



3. 今冬ボーナスは昨年と比べて増減はありますか？

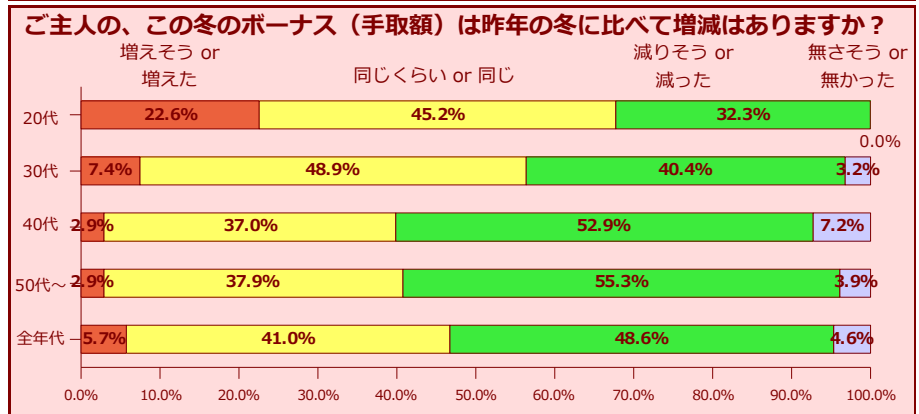
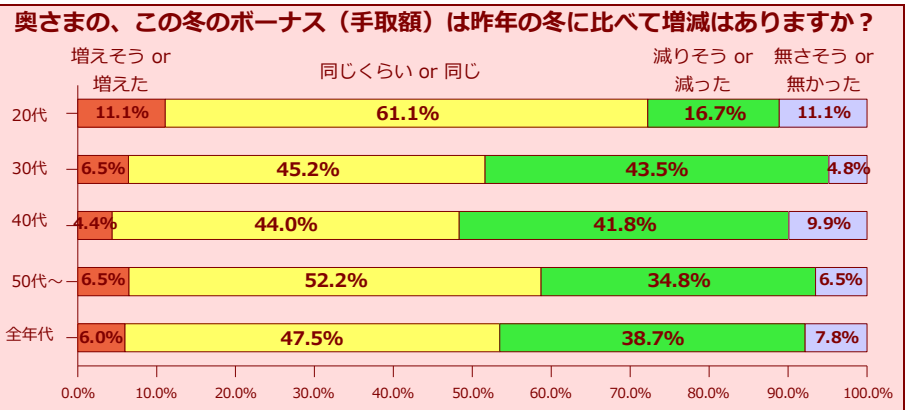
⇒「前年比横ばい」傾向は縮小。全世代において減少傾向？

今冬ボーナス（手取り額）は昨年と比べてどうなると予想されますか？既に支給されている場合は、実際どうでしたか？と尋ねたところ、全年代において「同じくらい（同じ）」との回答が最も多く、奥さまについては47.5%、ご主人については41.0%（前年比▲10.6ポイント）となった。「同じくらい（同じ）」という回答が最も多いのは例年通りだが、同項目には当期において減少傾向が伺われる。

（※以下全て、ご主人についての数字で比較）20代の「減りそう（減った）」は32.3%（同+14.4ポイント）、30代の「減りそう（減った）」は40.4%（同+12.6ポイント）、40代の「減りそう（減った）」は52.9%（同+28.5ポイント）、50代以降の「減りそう（減った）」は55.3%（同

+15.6ポイント）と、全ての世代において当期ボーナスは減少しそう（減少した）という回答が増加している。

ただし、下記『項目4.』も勘案すると、この結果には別な側面も伺われる。

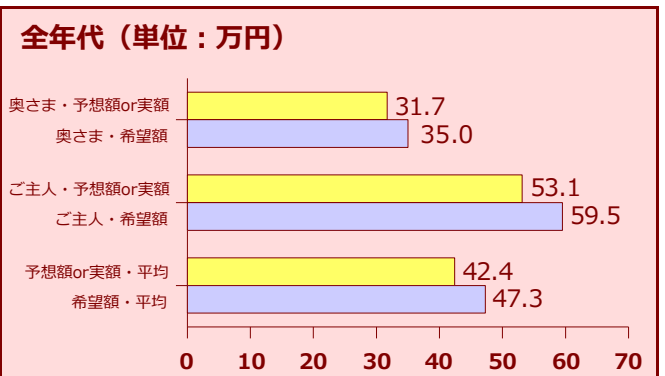


4. ずばり、ボーナスの予想額or実額は？希望額はいくらですか？

⇒前年比ではやや増加傾向だが、実感に乏しい模様。

ボーナス（手取り額）の予想額あるいは実額はおいくらですか？と尋ねたところ、全年代において、奥さまについては31.7万円、ご主人については53.1万円（前年比+1.2万円）、平均すると42.4万円となった。上記『項目3.』では、支給額が減少しそう（した）という回答が増加したことを考えると、一部の支給額が上昇した方々によって全体が押し上げられたとも考えられるが、これは後述する。

また、予想額・実額とは別に、「最低限この程度は欲しい」とご希望される金額はおいくらですか？と尋ねたところ、全年代において、奥さまについては35.0万円（予想額・実額より+3.3万円）、ご主人については59.5



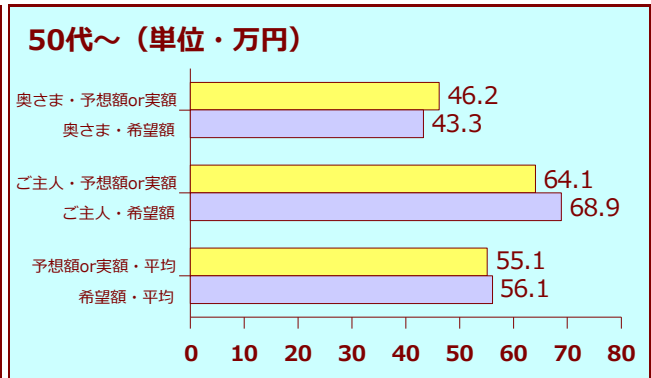
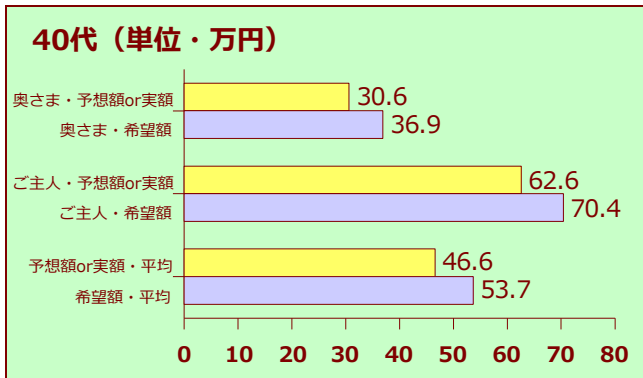
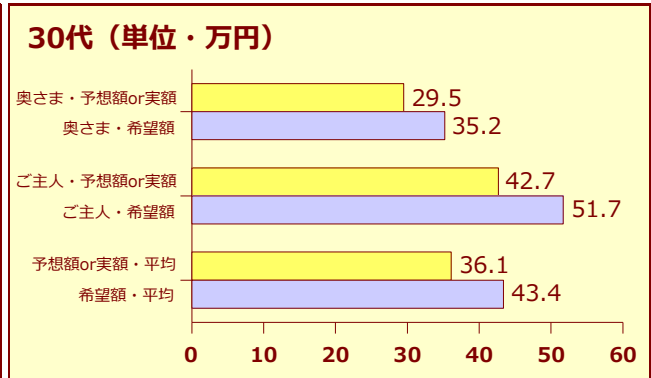
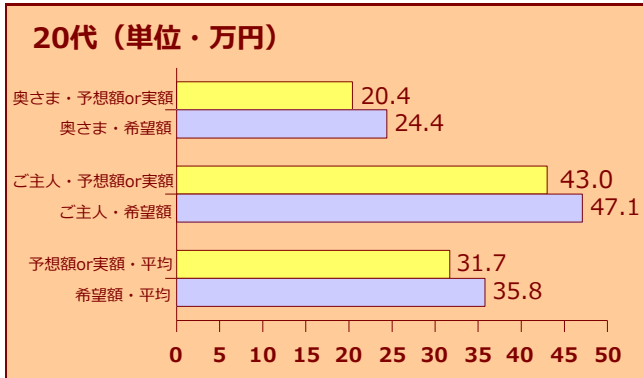
万円（同+6.4万円）、平均すると47.3万円（同+4.9万円）と、実際の支給額より「あと5万円程度は増えてほしい」という声が強いうだ。昨年は「10万円程度増加してほしい」という回答が多かったが、当期の希望額はやや減少

したようである。

ご主人の支給額をもとに、予想額もしくは実額について前年比を算出すると、20代では43.0万円（前年比+6.0万円）、30代では42.7万円（同▲3.3万円）、40代で

は62.6万円（同+1.9万円）、50代以降では64.1万円（同+0.2万円）となった。

前年比でみると、必ずしも「軒並み減少」という結果ではない。『項目3.』の結果には、やや主観的な要素も反映されているのかもしれない。



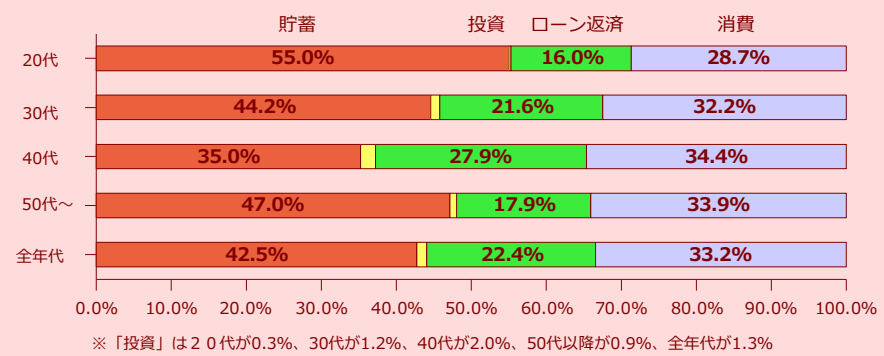
5. 「貯蓄」「投資」「ローン返済」「消費」どう配分しますか？

⇒「貯蓄」「消費」増加傾向。「ローン返済」「投資」減少傾向。

ボーナスのお使いみちを「貯蓄」「投資」「ローン返済」「消費」の4つに分けた場合、どのように割り振りするご予定ですか？あるいはどのように割り振りしましたか？と尋ねたところ、全年代において、「貯蓄」が42.5%（前年比+3.0ポイント）、次いで「消費」が33.2%（同+5.1ポイント）と増加した。反対に、「ローン返済」は22.4%（同▲7.2ポイント）、次いで「投資」（※株式や投資信託などの購入）は1.3%（同▲1.2ポイント）と減少した。

4項目の順位は例年と変わらないが、「まずは「貯蓄」と「消費」を行って、「ローン返済」もしなければならぬし、「投資」は余剰資金があったらやろう」という傾向は一層強くなっているようだ。

この冬のボーナスはどのように割り振りますか？



この傾向を時事動向と簡潔に照らし合わせてみると「預金利息上昇や、先行きの不安感から貯蓄増加」「原油・原材料価格高騰から消費を増やさざるを得ない」「貸出金利上昇からローンを組まないようにする」「投資は前3者の影響で減少」といった想定も成り立つ。

（各家庭の事情なども考慮すべきであろうから）上記の想定はやや単純すぎるのかもしれないが、この結果は概ね世相を反映しているのではないかと思われる。

6. ボーナスをすぐには使わない場合、それはどのような目的から？

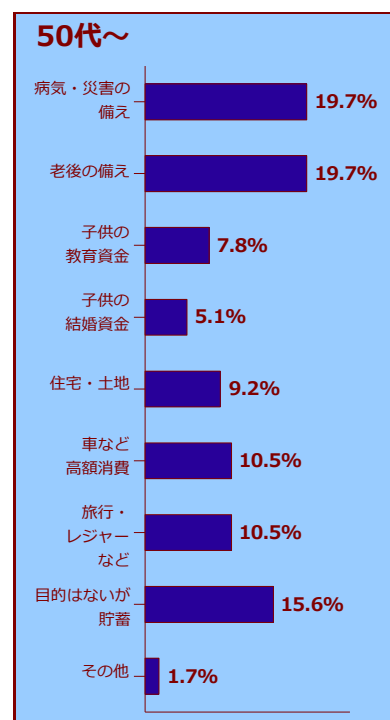
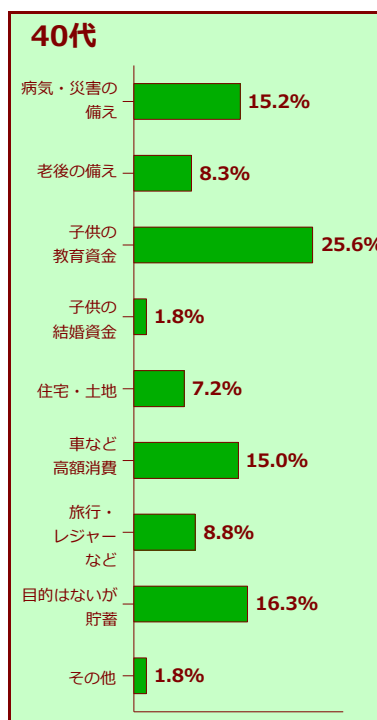
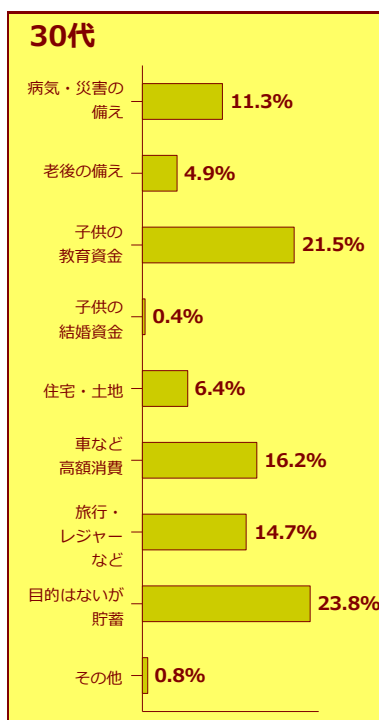
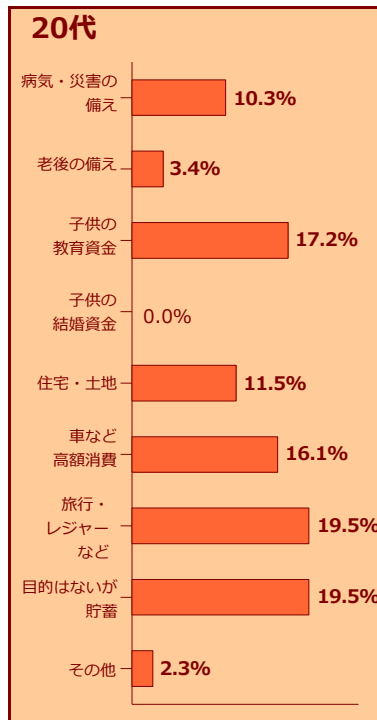
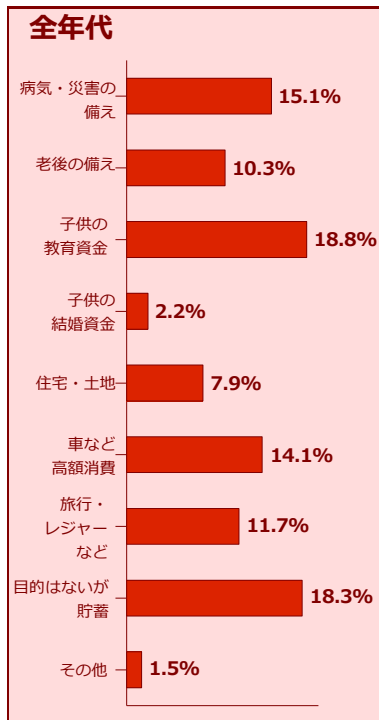
⇒「子供の教育資金」「何となく」「病気・災害対策」が今回も優勢。

ボーナスをすぐには使わない場合、それはどのような目的からですか？と尋ねたところ、全年代において、「子供の教育資金にあてるため」が18.8%（前年比▲0.1ポイント）で1位、「特に決まった目的は無いが、貯蓄していれば安心できる」が18.3%（同+3.5ポイント）で2位、「病気や不時の災害のときに備えるため」が15.1%（同▲3.3ポ

イント）で3位となった。この3項目が上位となっているのは例年通りであるが、2位・3位が入れ替わった。

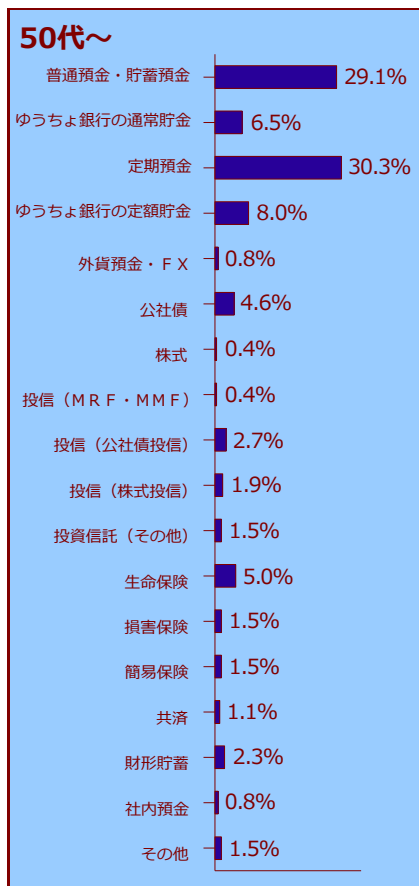
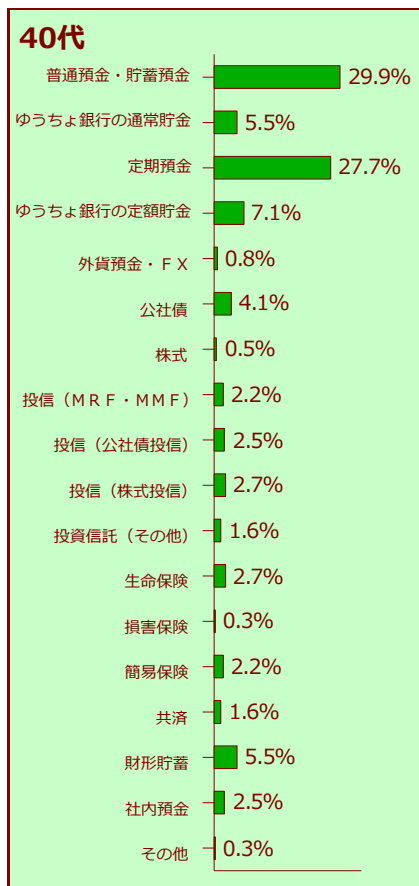
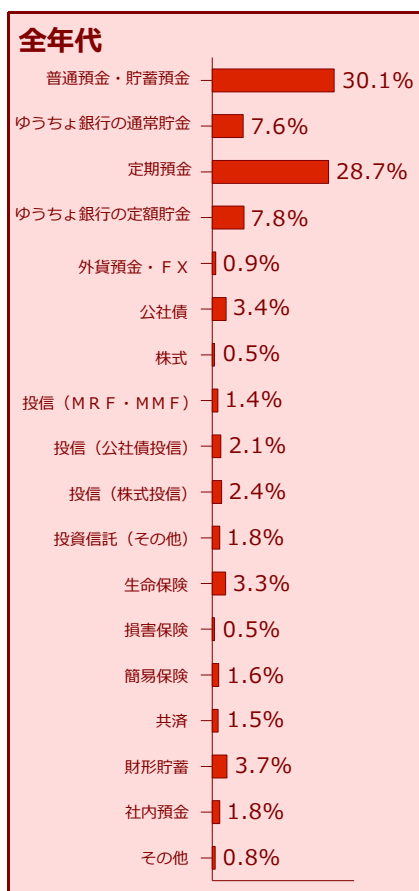
本調査の調査票には、最近の景気全般について感じていることを自由にお書きいただく欄があるが、そちらでは「（今の時代は）子育て世代に優しくない。主婦の雇用が少なく、子どもが小さいと断われやすい」といったご意見もあった。また、昨今は原油・原材料価格高騰に関する報道が多いが、同じく自由記入欄には灯油・ガソリン・食料品の価格高騰について全世代からかなりの量のご意見をいただいた（おしなべて原油・原材料価格高騰が家計を圧迫して大変」という内容だった）。

「子供の教育資金」「特に決まった目的はないが貯蓄」といった割合が高い背景には、これらの先行きに対する不安感が高まっている事情が考慮される。決して余剰資金が潤沢にある上で貯蓄しているわけではないが、「先行き面を考えれば貯蓄せざるを得ない」と多くの方々が考えているようだ。



7. 「ボーナスで金融商品を」どの商品を選びますか？

⇒普通・定期預金が引き続き人気。そのほかの商品は例年通り。



ボーナスを金融資産として運用する場合、どのような金融商品をお選びになりますか？と尋ねたところ、全年代において「銀行や信用金庫などの『普通預金・貯蓄預金』」が30.1%で1位、「銀行や信用金庫などの『定期預金』」が28.7%で2位となった。1位と2位の順位は前年から入れ替わったが、この2つが突出している傾向は例年と変わらない。

次いで、「ゆうちょ銀行の『定額貯金』」が7.8%、「郵便局の『通常貯金』」が7.6%と続く。本調査は平成19年10月1日の「ゆうちょ銀行」発足後に実施したものであるが、同項目について今のところ大きく割合が増減するよう

な傾向はみられない。

年代ごとにも、「普通預金・貯蓄預金や定期預金が突出して高割合で、通常貯金や定額貯金がそれに続く」という傾向は変わらない。やや若年世代において通常貯金の割合が高いが、これはゆうちょ銀行発足以前にもみられた傾向である。

また、平成19年9月30日には金融商品取引法（以下「金商法」と略記）が施行された。金融機関の窓口に行かれた方は、リスク商品に関する各種手続等がいつそう厳格になったことを実感されたのではないと思われる。

では金商法施行は本調査結果にも何らかの影響を及ぼすのだろうか。一例として、本調査では4項目ある「投資信託」を年代毎に合算してみると、20代は7.9%、30代は7.0%、40代は9.1%、50代以降は6.5%、全年代で

は7.7%という結果になった。

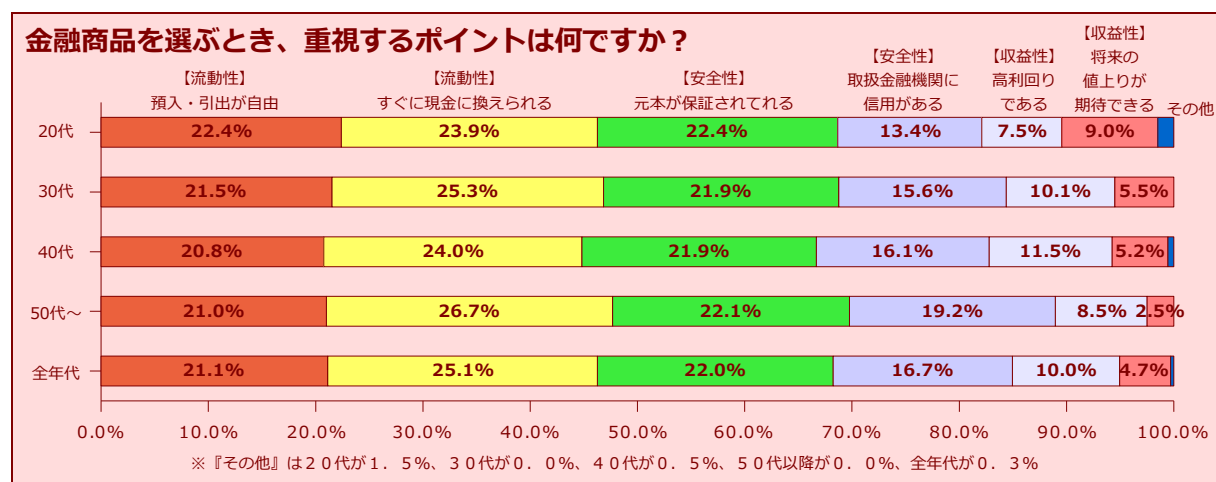
「投資信託」関連を合算しても、ゆうちょ銀行関連商品2項目のうち一方に及ぶかどうかという程度である。「株式」や各種保険商品（※こちらには元本保証のものも含まれます）などもそれほど目立った動向を示すものはなく、低順位のままである。つまり、本調査結果からは金商法に関する影響はあまりみられなかった。

ただし、ゆうちょ銀行発足にしろ金商法施行にしろ、まだそれほど時間が経っていないのも事実である。

今後の動向次第で大きな変化が現れる可能性もあるので、次回の調査でも引き続き注視していきたい。

8. 金融商品をお選びになる際に、重視するポイントは何ですか？

⇒『流動性→安定性→収益性』は不変だが、流動性微増・安全性微減。



金融商品をお選びになる際に、重視するポイントは何ですか？と尋ねたところ、全年代において、

【流動性】

◇少ない金額でも、預入・払出が自由にできること：

…21.1%（前年比▲1.0ポイント）

◇必要なとき、すぐに現金に換えられること：

…25.1%（同+2.5ポイント）

《小計：46.2%（同+1.5ポイント）》

【安全性】

◇元本が保証されていること：

…22.0%（同▲1.9ポイント）

◇取扱金融機関に信用があり、安心して預けられること：

…16.7%（同▲0.2%）

《小計：38.7%（同▲2.1ポイント）》

【収益性】

◇高利回りであること：

…10.0%（同▲1.2ポイント）

◇将来の値上りが期待できること：

…4.7%（同+1.5%）

《小計：14.7%（同+0.3ポイント）》

順位は【流動性】→【安全性】→【収益性】

と例年通りだが、今回は流動性がやや増加し、安全性がやや減少している。

9. 現在はローンをご利用されていますか？

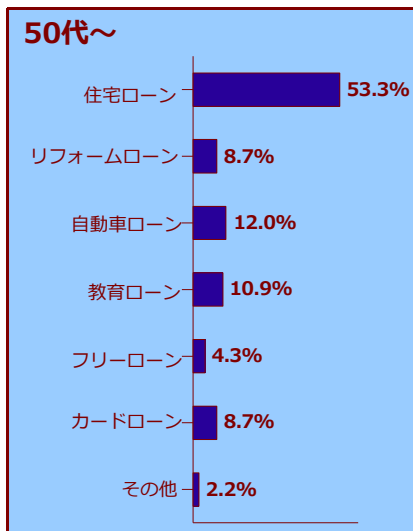
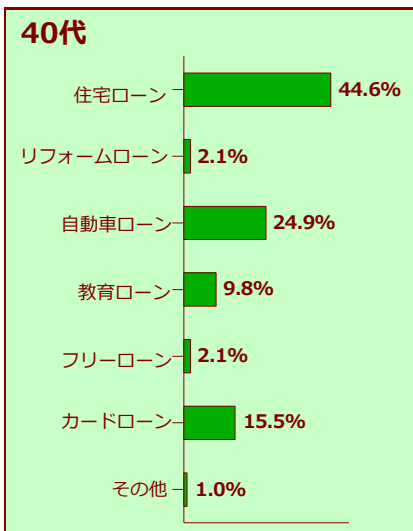
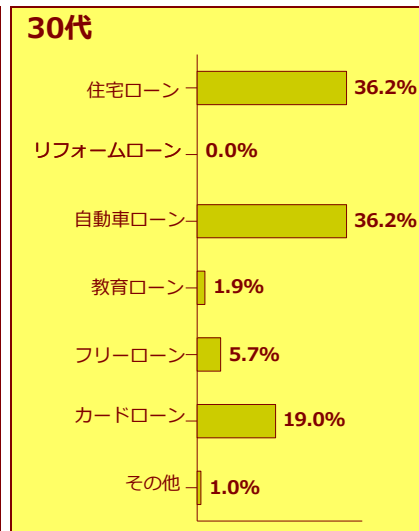
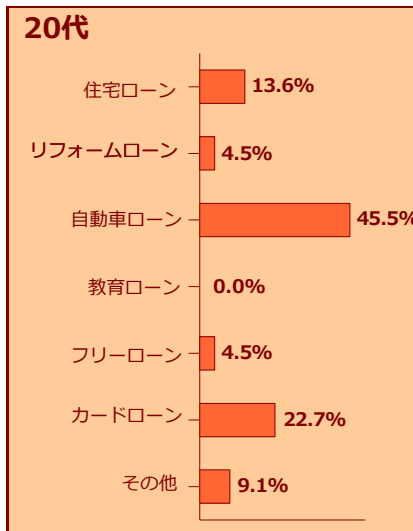
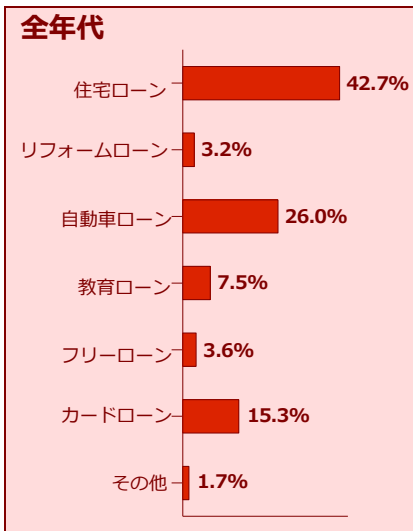
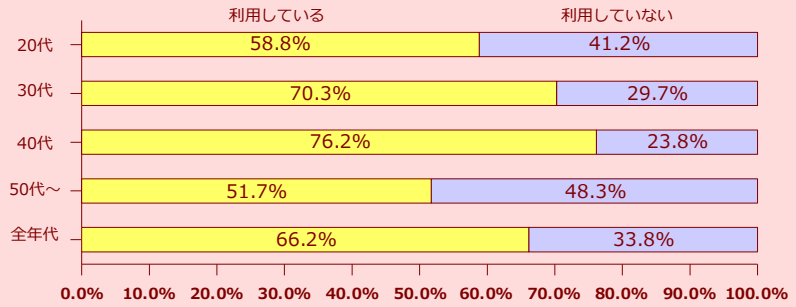
それはどういうローンですか？

⇒利用割合はほぼ横ばい。内訳は住宅・自動車・カードローンが人気。

ご家族では現在、何らかのローンをご利用されていますか？と尋ねたところ、全年代において「利用している」は66.2%（前年比+0.1ポイント）と、ほぼ横ばいとなった。

各年代においては、20代は58.8%（同▲1.9ポイント）、30代は70.3%（同▲4.0ポイント）、40代は76.2%（同+3.5ポイント）、50代以降は51.7%（同▲0.9ポイント）と、20代～30代はやや減少、40代は増加、50代以降はほぼ横ばいという結果となった。

現在、ローンをご利用されていますか？

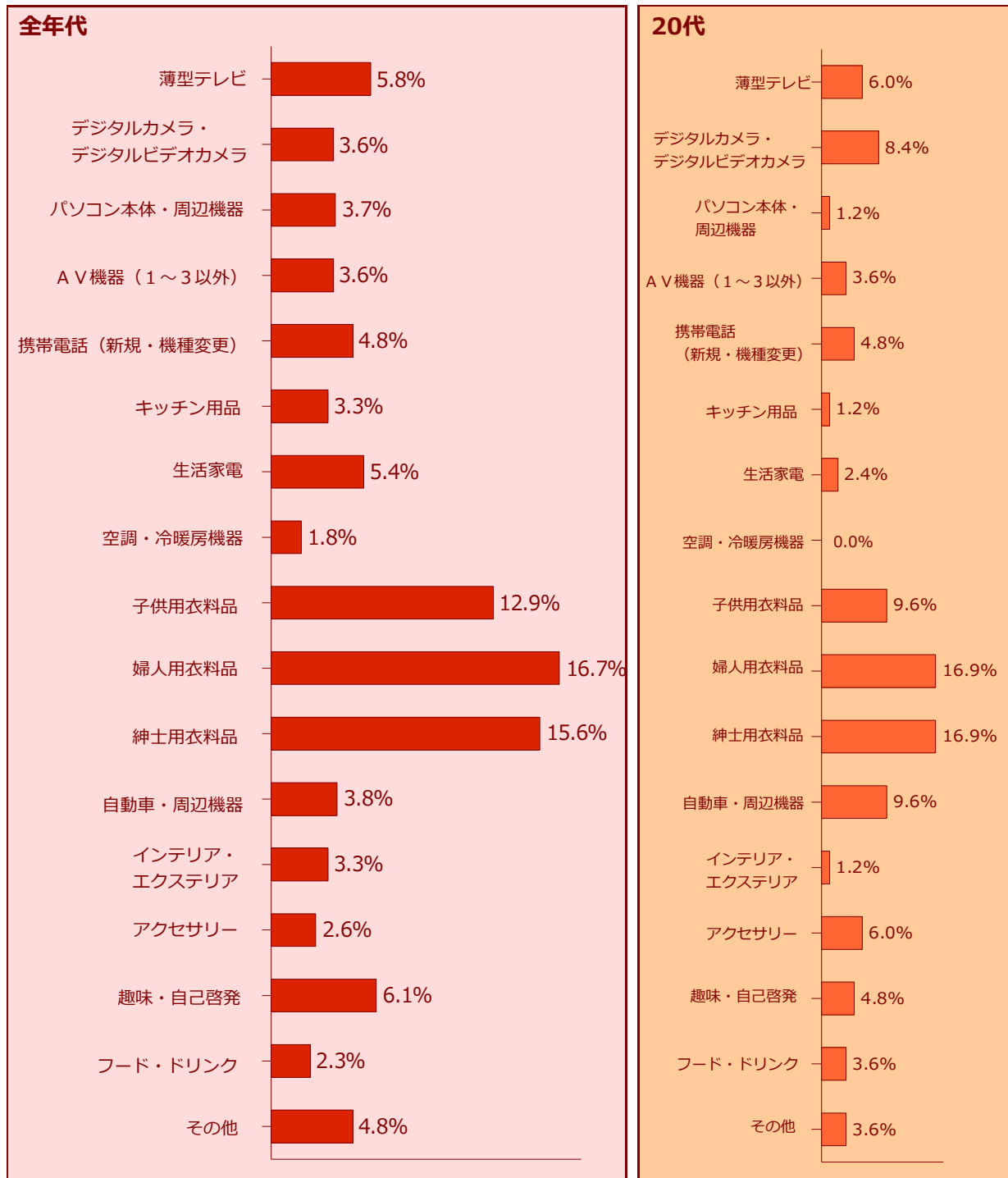


上記に続き、「利用している」とお答えいただいた場合、そのローンの種類は何ですか？と尋ねたところ、全年代において「住宅ローン」が42.7%（前年比▲4.6ポイント）と1位、「自動車ローン」が26.0%（同▲4.4ポイント）%と2位、「カードローン」が15.3%で3位となった。概ねほぼ例年通りの傾向となっている。

年代ごとにも、「低年齢層ほど自動車ローンの割合が高く、高年齢層ほど住宅ローンの割合が高くなる傾向」「教育ローンは年齢層が上がるほど割合も上がる」という傾向が当期もみられる。また、今回からは従来の「消費者ローン」という項目を「フリーローン」「カードローン」に分けているが、全ての年代で「フリーローン」は2%～6%、「カードローン」は50代以降を除き15%以上を占めていることが分かった。

10. この冬、ボーナスでほしいものは何ですか？

⇒今期も衣料品が中心。2位が趣味・自己啓発関連、3位が薄型テレビ。



この冬のボーナスでお買い物をご予定されている場合、何を買い求めになりますか？と尋ねたところ、全年代において1位から順に、「婦人用衣料品」が16.7%、「紳士用衣料品」が15.6%、「子供用衣料品」が12.9%と、例年通り衣料品関連が高順位を占めた。

年代ごとには、今期は20代での「子供用

衣料品」割合が低下しているが、30代～40代は高割合となっている。対して、「婦人用衣料品」「紳士用衣料品」はどの世代もおしなべて高割合であった。

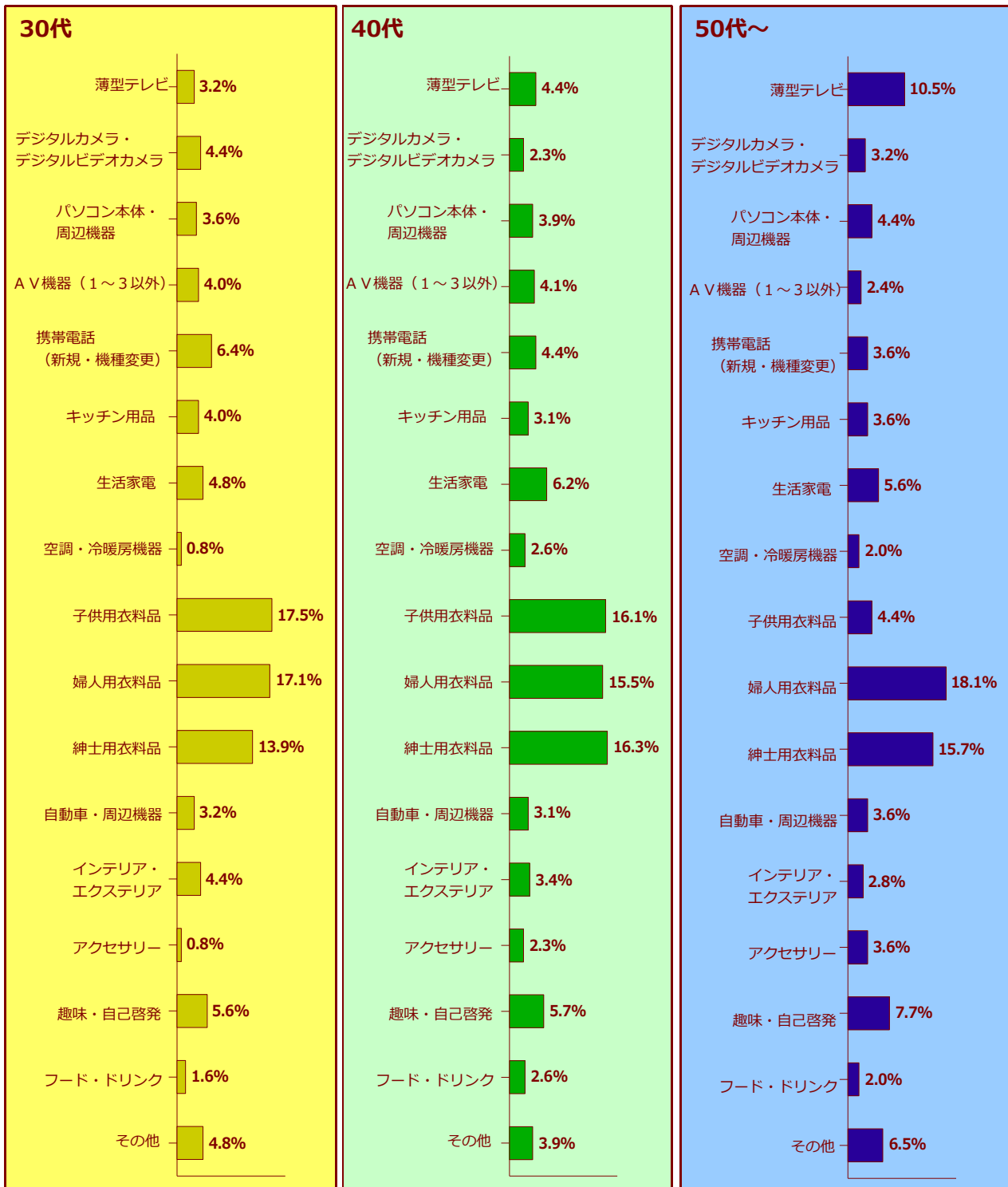
衣料品関連以外で突出した項目は無いが、全年代において「趣味・自己啓発関連（スポーツ用品・楽器・書籍など）」が6.1%と2位、

「薄型テレビ」が5.8%と3位であった。なお、今夏の調査でもこの2項目は（衣料品関連を除けば）高順位を占めている。

この他には、デジタルカメラ関連、パソコン関連、AV機器、携帯電話、生活家電（洗濯機・掃除機など）といった、いわゆる「家電品」は、今期もある程度の根強い人気を誇っている。ボーナス商戦時はこれらの新製品が各社から発表されるものだが、調査先のご家庭は欲しいものをお買いになられたらどうか。

ちなみに、時事的な話題として、昨今は「原油価格高騰」が世論を騒がせている。（単純に考えれば）「空調・冷暖房機器」の項目が増加する可能性もあったが、今回の調査では特に動きはみられなかった。

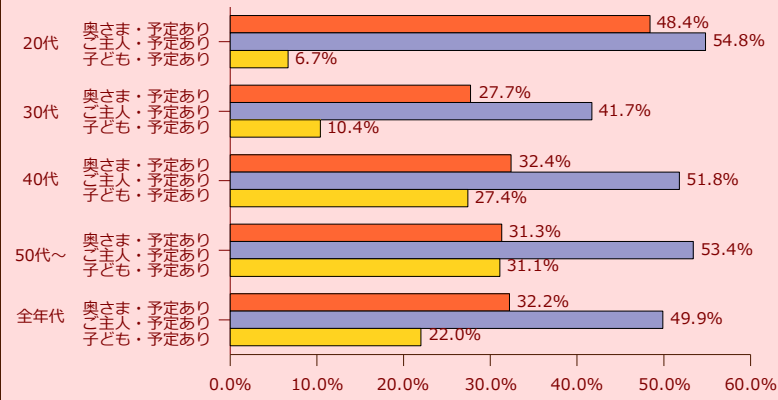
灯油・ガソリン代などの高騰を嘆くご意見は自由記入欄でも多数拝見させていただいたが、原油価格高騰が購入品目を左右することは無かったようだ（購入金額・数量は減少していると思われるが）。



11. ご夫婦のおこづかいはおいくらですか？

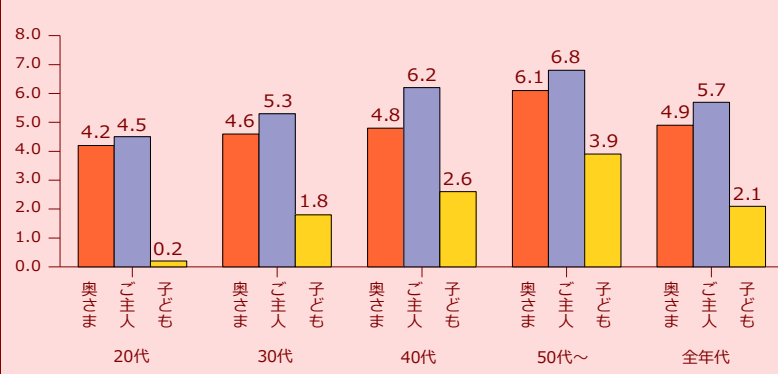
⇒奥さまは3割強が「おこづかいあり」。平均額は4.9万円。
ご主人は5割弱が「おこづかいあり」。平均額は5.7万円。
子どもは2割強が「おこづかいあり」。平均額は2.1万円。

今冬ボーナスからの、おこづかいのご予定は？



この冬のボーナスから、ご家族のお小遣いにあてるご予定はありますか？
また、その金額はおいくらですか？と尋ねたところ、全年代において奥さまのお小遣い「予定あり」は32.2%（前年比▲11.7ポイント）、ご主人のお小遣い「予定あり」は、全年代において49.9%（同▲18.1ポイント）、子どもの「予定あり」は22.0%（今回初調査）と、ご夫婦の「予定あり」は大幅に減少した。

おこづかいはどのくらい？（単位：万円）



一方、お小遣いの平均額をみると、全年代において、奥さまの平均額は4.9万円（同▲0.6万円）、ご主人の平均額は5.7万円（同▲1.2万円）、子どもの平均額は2.1万円（今回初調査）となった。

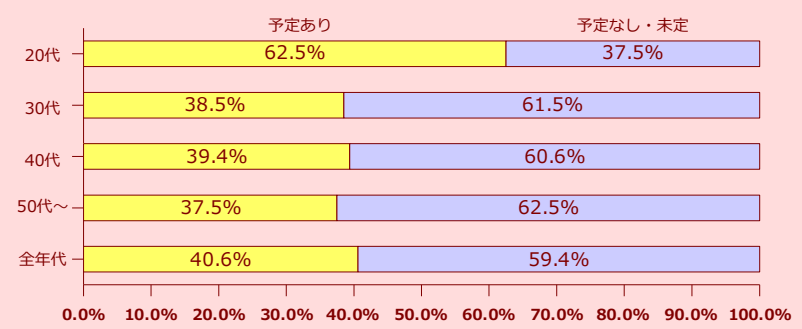
ご予定・実額ともに、少々世知辛い結果となったようだ。

12. この冬、ご旅行・レジャーなどのご予定はいかがですか？ あるいは実際に行かれましたか？

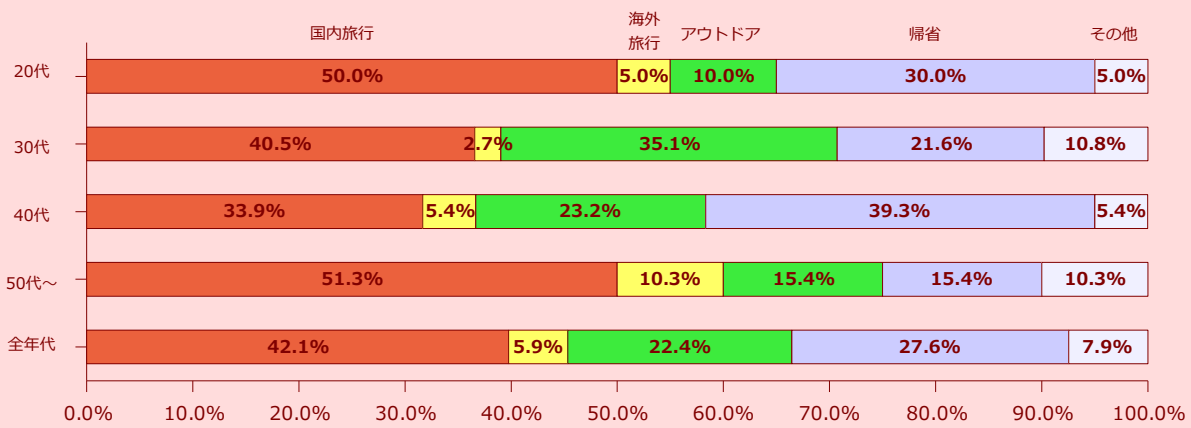
⇒「予定・実施割合は増加」「国内旅行・帰省・アウトドアが人気」
「日数は2～4日が中心」「総費用はやや増加」。

この冬、ご旅行・レジャーなどのご予定はありますか？（実際に行かれましたか？）という設問について、まずはご予定自体の有無だが、全年代において40.6%（前年比+5.2ポイント）と増加した。例年高得票を占める20代が62.5%（同+12.5ポイント）と今回はさらに増加し、全体の数値を押し上げた。30代は38.5%（同▲4.2ポイント）と減少しているが、40代は39.4%（同+12.5ポイント）、50代以降は37.5%（同+4.2ポイント）と、ほとんどの年代において増加傾向が伺われた。

ご旅行・レジャーなどに行かれましたか？

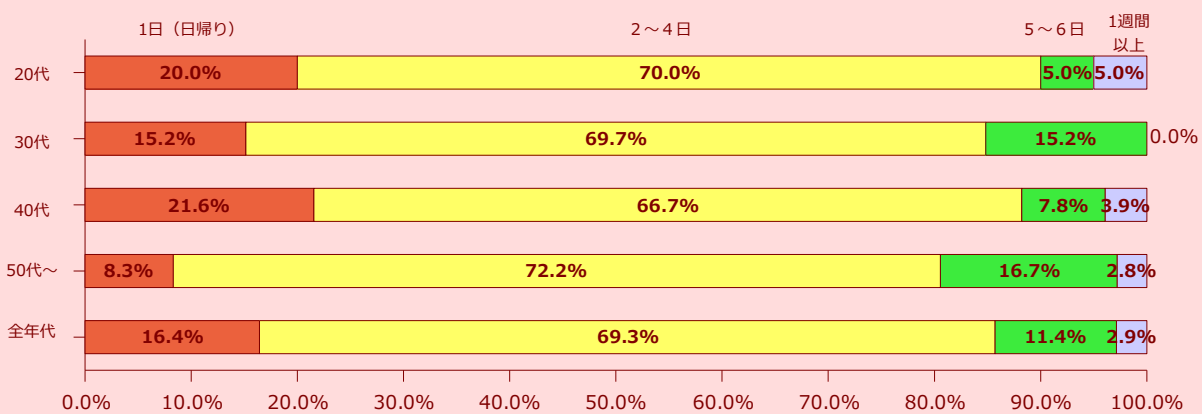


(予定あり、もしくは実際に行かれた方へ) どのようなご予定でしょうか？



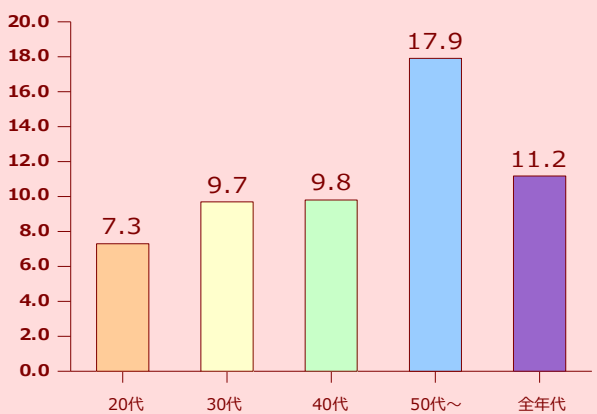
次に**(予定がある方もしくは実際に行かれた方へ) どのようなご旅行やレジャーか**について尋ねたところ、全年代において「国内旅行」が42.1%（前年は「国内観光旅行」が19.7%、「国内温泉旅行」が48.8%、合計68.5%であり、前年比▲26.4ポイント）と1位、「帰省」が27.6%（同+11.1ポイント）と2位、「スキーなどのアウトドアレジャー」が22.4%（同+16.1ポイント）と3位、という結果になった。「帰省」が例年より増加している。

(予定あり、もしくは実際に行かれた方へ) 何日間でしょうか？



さらに、**(予定がある方もしくは実際に行かれた方へ) 何日間滞在されたか**を尋ねたところ、全年代において「2~4日」が69.3%と突出して1位となった。 昨年の調査では「平均日数は何日間でしょうか？」という設問であったが、そのときの全年代平均は2.8日間であったので、大勢は変わっていないようだ。次いで2位が「1日(日帰り)」で16.4%であり、20代、40代では2割強を集めている。3位の「5~6日」も11.4%と、例年に比べればやや増加している。

ご予算はどれくらいですか？



そして、**(予定がある方もしくは実際に行かれた方へ) 総費用はどれくらいか**を尋ねたところ、全年代において平均額は11.2万円（同+1.2万円）とやや増加した。 50代以降が17.9万円（同+7.1万円）と大幅に増加し全体を押し上げた。

総じて、「旅行・レジャーの予定もしくは実施割合は増加に転じた。ただし(比較的)近場志向は継続しており、実家へ帰省する傾向も強い。日数は2~4日が中心。総費用はやや増加傾向にある」という結果となった。

《スポット調査》

昨年の金融業界トピックス2点！

「個人専門店」「ゆうちょ銀行」

～それぞれの期待度・これからのご希望を意識調査！～

今回調査では、昨年において話題となったトピックス2点についての意識調査を実施させていただきました。

まずは調査票にも記述した、当該ニュース2点を抜粋させていただきます。

①全国各地の銀行で「個人専門店（資産運用・年金相談など、個人のお客様に関する店舗）」誕生。当行でも平成19年9月18日より、筒井支店が個人専門店としてリニューアルオープンしました。」

②平成19年10月1日より、日本郵政公社が「持株会社（日本郵政株式会社）」と、事業会社「郵便局株式会社」「株式会社ゆうちょ銀行」「株式会社かんぽ生命保険」に民営化・分社化。

以上2点に関する「期待度」（※4項目のうち1つを選択）「ご利用されたときの感想・これから期待したいことなど」（※記述回答）についてお尋ねいたしました。なお、本調査においては年代ごとに特別な傾向などはみられなかったため、「期待度」に関する数値データは全年代を総合したもののみ掲載しております。

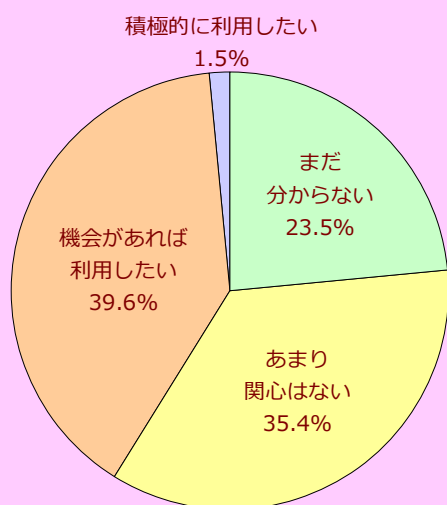
どちらのトピックスも「まだ日が浅いこともあり、今後の動向次第」という側面も否定できませんが、まずは「現段階での速報データ」としてご覧いただければ幸いです。

特に「個人専門店」に関しては当行でも実施している事案でもあるため、ご回答者の皆様の貴重なご意見を、今後大いに参考にさせていただきます。本調査にご協力いただいた皆様へ、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

「個人専門店」について

- ◆期待度
- ◆ご利用されたときの感想
- ◆これから期待したいこと

「個人専門店」に対する期待度



まず「期待度」については、「積極的に利用したい」「機会があれば利用したい」総合値で41.1%と4割強が肯定的、「あまり関心はない」は35.4%と3割半が否定的、「まだ分からない」は23.5%と、やや肯定的な回答が多い結果となった。

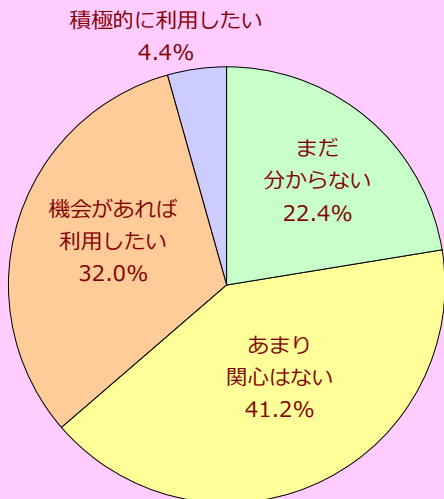
「ご利用されたときの感想」をみると、「きれいな店舗で、駐車場も入りやすく環境面で整っていると思われる」など、おもに施設面などで好評だったようだ。

「これから期待したいこと」をみると、「いろいろな種類の商品があるので、より分かりやすく説明してほしい」「きめ細かいサービス・情報提供を期待したい」「ニーズを引き出すためにも、個々にマッチした商品を提案してほしい」など、昨今の金融商品の多彩さを勘案したご要望が多かった。また、「個人専門店がどうかというより、親切な職員かどうかのほうが大切」など、どのような業態であっても結局は「人」が大切、といったご意見も複数見受けられた。

「ゆうちょ銀行」について

- ◆期待度
- ◆ご利用されたときの感想
- ◆これから期待したいこと

「ゆうちょ銀行」に対する期待度



まず「期待度」については、「積極的に利用したい」「機会があれば利用したい」総合値で36.4%と3割半ばが肯定的、「あまり関心はない」は41.2%と4割強が否定的、「まだ分からない」は22.4%という結果になった。

「ご利用されたときの感想」をみると、「特に変わったことは今のところ感じていない」といった意見がやや多かったが、「接客改善など意欲が感じられる」といった肯定的なご意見も散見された。また（民営化からはやや離れるが）「全国どこでも使える通帳は有難い」など、店舗数の多さを肯定的に言及される方も多かった。

「これから期待したいこと」をみると、「金利・手数料が銀行と違うようであれば利用を考える」「官では出来なかったことをどんどんやってほしい」といった、郵便局時代あるいは既存金融機関との違いを打ち出してほしいというご意見が多かった。また「個人専門店」と同様に、官か民か以前に「職員がどうなのかが大事」という声も散見された。

《スポット調査》総論

「期待度」について、「個人専門店」における肯定意見の割合は41.1%、「ゆうちょ銀行」における肯定意見の割合は36.4%という結果になった。どちらにおいても、まずは「出足はやや好調」といったところだろうか。

ただし「機会があれば利用したい」という、やや消極的な肯定意見が大半であることも見落としてはならないだろう。どちらも日が浅いこと、特に個人専門店是全国的にもまだ店舗数自体が多くはないことを考えれば止むを得ない側面もあると思われるが、今後の展開次第では肯定・否定どちらに転ぶか分からない「浮動票」も多いと認識すべきかもしれない。

次に「ご利用されたときの感想」だが、「個人専門店」については前述の通り店舗数が少ないこともあり、回答自体が多くはなかったが、ご利用される皆様にとっては施設面、端的に言えば「視覚的なインパクト」が最も印象深かったようだ。（当行も含め）個人専門店の店舗レ

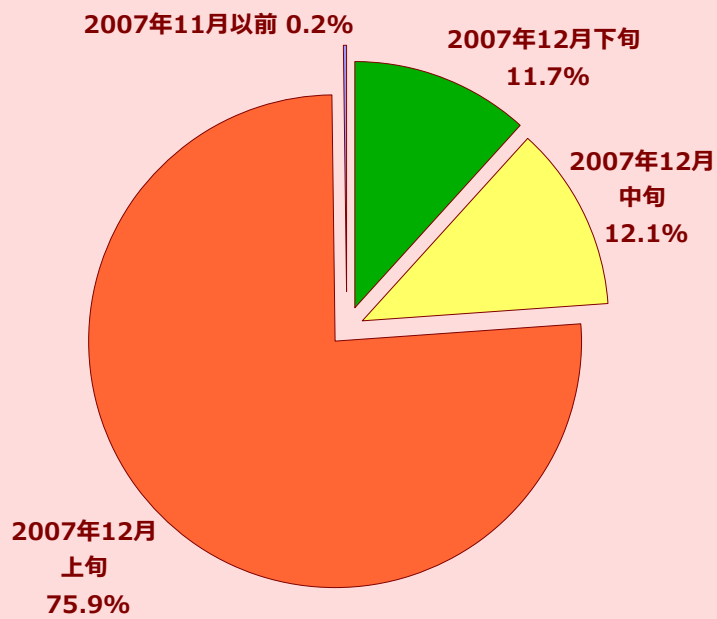
イアウトについては、従来の窓口・ロビー以上に落ち着いて相談できる雰囲気づくりを目指しており、その試みは概ね奏功していると思われる。しかし一部では「敷居の高さを感じる」といったご意見もあるので、バランスが難しいところである。「ゆうちょ銀行」については、今のところ従来との違いは「見定め中」といったご意見が最も多いが、接客改善を称賛する声もそれなりに多い。

最後に「これから期待したいこと」だが、「個人専門店」については「各種金融商品の説明力・提案力」、「ゆうちょ銀行」については「郵便局時代や既存金融機関との違いを打ち出すこと」に最も多くの期待が寄せられていた。

しかしそれ以外にも、「個人専門店」「ゆうちょ銀行」であること以上に、対応マナーや親しみやすさ、商品知識量などといった「職員自身」への期待もかなり強いようだ。

もちろん「個人専門店」「ゆうちょ銀行」双方の戦略において「人材育成」も視野に入れているであろうが、人材育成については今後さらに注目度が高まっていくかもしれない。

冬季ボーナス支給日はいつごろ？（全平均）



家庭の銀行



発行：株式会社みちのく銀行 経営企画部 広報室

〒030-8622 青森市勝田1丁目3-1

TEL：017-774-1274